

# 愛 need You

～中学生と乳幼児のふれあい体験事業～



「健康うだ 21 計画」の取り組みの一環として始まった「中学生と乳幼児のふれあい体験事業」。

平成 21 年度からのモデル事業実施を経て、同 24 年度からは市内全中学校と保健センターとの協同事業として取り組んでいます。

今回は、菟田野中で行われた体験事業に参加し、みんながどのようなことを学んだのか聞かせていただきました。

問 中央保健センター (☎ 92・5220 / IP ☎ 88・9175)  
(室生福祉保健交流センター内)

▲受精後、1 か月の胎児の実物大人形

**宇** 陀市では、この事業を通して、みんな若者を育成することを目指しています。

この事業は、「望まない妊娠の減少」「性感染症の予防」といった課題解決に向けて始まりました。取り組みの主な目的は、中学生が乳幼児やその保護者と交流することで、命の大切さ、子育ての大変さや楽しさを学ぶことです。

そして、多感なこの世代を過ごしていくなかで、自分の身体を守るための自己決定ができる知識と意識を持ってもらうこと、生命の尊さを考えてもらうことを狙っています。

「自分も周りも大切に思い、  
そして命を大切にできる人」

菊岡知代 (保健師)  
中央保健センター勤務  
母子保健担当



■中学生と乳幼児のふれあい  
体験事業参加者人数

(単位:人)

	中学生	ふれあい体験ボランティア	
		乳幼児の父母	乳幼児
H25 年度	244	99	98
H26 年度	256	99	107
H27 年度	271	99	98
H28 年度	235	101	109
H29 年度	243	116	120

知ることを感じることが重要

この授業は 2 回に分けて行い、初日は助産師を講師に招き、生命の誕生をはじめ、胎児の成長や妊婦の状態について学びます。2 日目は保健師が乳幼児の身体の特徴や抱き方、オムツの替え方などを指導し、その後、実際に乳幼児とそのお母さんと一緒にふれあい、交流を図ります。

今年度は、市内の全中学校の授業で延べ 116 組の親子がこのふれあい体験ボランティアとして参加してくれました。

若者世代の流出や少子高齢化が進み、年々出産件数の低下が著しい本市です。しかし、これだけ多くの方々がこのような交流に協力してくれることは、本当にありがたいことですし、次世代の育成に対する関心の高さに誇りを持っています。そして、身近に学ぼうとする中学生にとっても非常に恵まれたことです。

この取り組みの効果が表れるのは、まだ数年先ですが、特に、「出産・育児」は本当に大変で責任も大きい、だからこそ若年層の安易な気持ちでの妊娠を避けることに繋がれば、また心身ともに健やかな子育てに繋がればと思います。

お母さん方も日々の育児で大変だと思いますが、中学生たちとふれあうことで過去の自分を思い出したり、今の自分を見つめ直したり、そして子育ての充実感を改めて感じていただいているようです。そうやってお互いの交流の中で先輩から後輩へ生命のバトンが繋がれば、と思っています。

結婚や出産、また子育ての環境は日々変動し、多様化しています。しかし、その中で変わらないのは「かけがえのない生命」。生命を知り、ふれあいを感じることで、他人を大切にし、そして自分自身を大切にします。この授業が、みなさんの人生学びの1ページになることを願っています。

## 「照れクサイ台詞だけど、 やっぱり愛は大切」

**中** 学生のみなさんの反応がすごく良かったです。本当によく聞いてくれていました。自分の命についても何か感じてくれたのではないのでしょうか。「命を大切に」とはよく耳にしますが、今回、「妊娠・出産・育児」という視点から、一番身近な自分自身のこととして感じてくれたと思います。

実際に「性教育」となると、恥ずかしいと思う生徒もいます。ですが、「こうして自分が生まれてきたんだ」ということを知ってもらうこと、そして受精から出産までの出来事を知ってもらうことで、「命はかけがえのないもの」ということを再確認してもらえればうれいのです。そのために、妊娠しても生まれることができなかつた命があることなど、現実的なお話もしています。



吉田あづささん（助産師）  
助産院勤務

当初から本事業に携わって  
いただいています。

みんながこれから通っていくかもしれない子育てですが、みなさんには今回しかできない体験をたくさんしてもらいました。それは、単に「大変やなあ、すごいなあ」と思うだけではなく、もう一歩踏み込んで何かを感じてもらいたかつたからなんです。

### ゲームと現実の違い！

ゲームでは、プレイヤーが死んでも復活の呪文で蘇りますが、現実とは違います。一度止まった心臓を再び動かすことは、本当に難しいのです。「ゲームのようにリセットすることができないのが命」このことを一番理解してもらいたいのです。

今回全員に妊婦体験をしてもらって、妊婦さんにとって普段の生活や日常の行動がどれだけ大変かを知ってもらいました。また、街中で妊婦さんや赤ちゃんを抱えたお母さんが、周りの人に助

けてもらって大変ありがたかつたエピソードなどを紹介しました。

例えば、妊婦さんがスーパーで買い物をしていて、急にお腹が張ってきて苦しくなつた時、お店の中で休ませてくれたこと。電車内で席を代わってもらつたりやさしくしてくれたことなど。家族だけじゃなく、周りの方々はお腹の赤ちゃんが元気に生まれてくることを願って、いろんなことでみなさんのお母さんを支えてくれていたんだというのを伝えました。

**人が生まれること、育つことは、  
当たり前と思うかもしれないけど、  
決して当たり前ではない！**

今回を機に、みなさんが無事に生まれるまでに、そんな多くの人の優しさや支えてくれたこと、一人ひとりの命にどれだけたくさんの方の思いが込められているのかを考えてもらいたいです。

### 愛って大切

「愛」って照れクサイ台詞ですが、みんなの心のどこかに持っているものだと思います。相手を愛することとはもちろん、子どもを妊娠する、子育てをするには、「愛」が必要なんです。そのため何より、自分自身を愛し、大切にすることが一番重要だということとを理解してもらえたらと思います。



①



②

## 事前学習の様子

- ①命が始まってから止まることのない自身の心臓の鼓動音を聞いてみる。
- ②妊娠月齢ごとの胎児の気持ちになって、それぞれの成長の様子を学ぶ。
- ③妊娠10か月の妊婦の様子。胎内には3000gの胎児、羊水500g、胎盤600g、お母さんの血や脂肪が4.5kg。合計約10kgの重りをつけているような状態です。
- ④胎内の胎児の様子。羊水の中で浮かんでいることを説明。
- ⑤精子と卵子が会うまで。模型を使ってわかりやすく学ぶ。
- ⑥妊婦スーツを全員着用し、妊婦の大変さを実感。



③



④



⑤



⑥

この経験は、これからを担う生徒たちが今後人生を歩むうえできつと重要な意味を持つでしょう。私たちが、明日を担う子どもたちに教育として伝えるべき本質はこういったところにあるのでしょうかね。今回の授業が彼らの心に刻まれることを願っています。

そして何より、お母さん方が地域の中学生のために駆けつけ、親子一緒に教育に関わってくださるボランティアの精神に感謝しています。これこそまさに「生きた教育」だと思いますし、学校としても非常に重要な授業の一つと位置づけています。

いつもこの授業では、普段と違う生徒の一面がうかがえます。すごく優しく、そして温かい目で赤ちゃんを見つめ、お母さんの言葉の一つひとつに心を傾けている、彼らのそんなピュアな姿は本当に微笑ましく、頼もしく思います。

**とにかく生徒たちの眼の輝きが違うんです**



久保雅靖先生 (菟田野中) 校長

特集

市政トピックス

うだぢから

まちのわだい

みんなで子育て

病院・ウェルネス

お知らせ

掲示板

うだちゃん



①



②

### ふれあい体験の様子

①②赤ちゃん人形でオムツ替え、抱っここの方法を練習。  
③～⑤昔みんなこうやって遊んでもらったんですよ。



③



④



⑤

「今回の交流で知ったこと。彼らが、このことをどう繋げていくのか」

今回の体験学習は、恐らく彼らにとって一生に一度の忘れない体験になると思います。

実は私自身、まだ独身なので、「妊娠・出産・育児」というのは、これまで自分にとっては知識や想像でしかありませんでした。でも、今回、生徒と一緒に妊婦体験をしたり、月齢ごとの赤ちゃんの人形を手にしたたり、実際に赤ちゃんを抱いたり、また体験者のお話を聞くことを通して、五感で感じながら学ばせていただくことができました。

お母さんの苦労であるとか、日常に周りが気を配らなければならぬことがたくさんあることを知ったので、私自身、将来子どもを持つときには堂々と構えて、奥さんを安心させたいなと思いました。

今回何より驚いたのは、生徒が助産師さんやお母さんたちのお話をしっかり聞いていたこと。ちょっと恥ずかしいと思うところもあったと思いますが、誰もが通ってきた道、そしてこれから通るであろう道です。「知っているか・知っていないか」で、これから大きく意識が変わってくると思います。



向本 光先生 (菟田野中)  
2年生担当教員

今回の体験は、それだけみんなにとって大きい学びだったと思います。この機会に「これから自分が何ができるか?」と振り返って、自分の人生に生かしてほしいです。

私自身ですが、生徒たちも、今回学んだことを、将来、自分自身の子どもを向き合うときに、どう伝えていくべきか、どう関わっていくべきかを考えなければならぬと思います。

「命」の意味を理解して、自分のことだけじゃなく、自分の周りの人のことも大切にしてもらいたいし、この授業を今後の人生に繋げていってもらいたいと願っています。

# 僕たち、私たちが 今回感じたこと



- ゲームではリセットすれば主人公は何度も復活できるけども、現実の僕たちは一度しか人生が無いので、今をしっかり生きて過去よりも、今の方がもっと良く、後悔のない人生にしていきたいと思いました。
- お母さんの話を聞いて、「日を重ねるにつれて成長してくれるのが嬉しい」とか名前の由来などを聞いて自分にもこんな想いがある名前をつけてくれたんだなと思いました。
- 私は今まで迷惑ばかりかけてきました。だけど、それでも私に愛情をたっぷり注いで育ててくれましたね。本当に感謝しています。
- 家族ができたら、自分の子どもにもたくさんのお愛をそそいで育てていきたいです。

- 子どものことをいつでも気遣える家族にしたい。
- 家族のみんなへ、自分がやりたいと思ったことをできる環境を作ってくれてありがとう。
- 私が、もし将来子どもを産むときが来たら、子どものことを1番に考える母親になりたいです。
- 今日、子どもの泣く様子を見て、私もこのように泣いて、たくさん迷惑をかけてしまったのかなと思いました。いろいろな苦勞を積み重ねてお母さんは私を育てくれたことが改めてわかりました。
- 僕たちは、いろんな人に支えられて生まれてきた、かけがえのない命だということがわかりました。これからはこの大切な命に感謝し、生きていこうと思います。

## 中学生の方と話すことって普段ないので、刺激になりました



辻村悠加さん・拓海くん（菟田野）

この取り組みに参加したきっかけは、子どもの健診で声をかけてもらったことです。私も子どもも中学生とふれあう機会がないので貴重な体験だなあといい、期待と不安の中、参加させていただきました。

最初はお互い緊張していましたが、中学生の子たちの優しさが温かかったですね。彼女たちには、今日のことを少しでも思い出してもらって、何かの役に立ててもらえたらと思っています。

私自身も彼女たちと話したことで、普段の子育ての忙しい中で忘れかけていた妊娠しているときのこととか、その時々いろいろな感動や出来事を思い出して、改めて今を見つめ直す素晴らしい機会になりました。

今日の体験はこれからの育児の励みにしたいと思いますし、子どもが大きくなったとき、今日体験したことを伝えたいと思います。

特集

市政トピックス

うだちから

まちのわだい

みんなで子育て

病院・ウェルネス

お知らせ

掲示板

うだチャン

# 一人の母親として、 学生と向き合っ て



- みなさんが、大人になったときに赤ちゃんとのふれあいを思い出していいパパ、ママになってくれたらと思います。
- 楽しいことばかりじゃないけどすごく素敵な時もあります。楽しんで子育てをしていきたいです。
- 中学生のみなさんと話す機会はなかなかないのでとても今日はよかったです。
- 男の子でも恥ずかしがらず、いろいろ話をしてくれて、将来、自分の子どももこういう風になるのかなと楽しみにになりました。

- 今日の体験を通して小さい子どもを慈しむ心が生徒みなさんの中に育っていけばいいなと思います。
- 毎日の子育ての中で、大変な日や、いろんな日がありますが、どんなことも幸せな経験だと思って、改めて感じてさせてもらいました。
- 愛情を持って子どもたちと向き合い、自分自身も全て勉強させてもらって感謝です。感謝の気持ちでこれからの子育てにつなげていきたいです。

## 育児って、本当に大変！でも、それ以上にきっと素晴らしいよ！

どの学校でも話してきたことは「育児は本当に大変だけど、それ以上に楽しいことや幸せに思うことがたくさん待ってるよ」ということ。この子と日々過ごしている中で、遊んでいるときなど、ふと成長しているところを垣間見ることがとてもうれしく、それを楽しんでいきます。

「いつ、この子がしゃべってくれるかな」と心待ちにする毎日です。これからが楽しみです。

今回、全中学校の授業に参加したのですが、特に女の子に伝えなかったのは、「産前産後を通して出産って本当に大変」ということです。ホルモバランスの乱れや、精神的にも肉体的にも大変なことを知ってもらいたかったんです。

家族に、この取り組みのことを話したら、「ぜひ参加して、いろんな方と話をしておいで」と背中を押してくれました。



南浦華奈さん・紬ちゃん（菟田野）